

令和7年度第2回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

令和7年9月22日

配 付 資 料

- 令和7年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 【資料1】 令和7年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・ P 2
- 【資料2】 再掲：伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)・・・ P 5
①市別、②北部・南部別
- 【資料3】 再掲：伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移・ P 7
- 【資料4】 再掲：令和22年度までの伊賀地域の県立高等学校（全日制）の
総学級数と当協議会の協議について・・・・・・・・・・ P 8
- 【資料5】 再掲：全日制高等学校の設置学科と学級数の推移
①伊賀市、②名張市・・・・・・・・・・ P 9
- 【資料6】 再掲：伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて
(令和8年度)・・・・・・・・・・ P 11
- 【資料7】 再掲：伊賀地域の専門学科と総合学科の学び・・・・・・・・・・ P 12
- 【資料8】 再掲：伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果について・・・ P 13
- 【資料9】 再掲：学校規模と教育環境の関係について①教員数、②部活動・・・ P 20
- 【資料10】 再掲：伊賀地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等・・・・ P 22
- 【資料11】 次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて・・・ P 24
- 【資料12】 学校施設の老朽化の現状・・・・・・・・・・ P 25
- 【資料13】 15年先を見据えた地域の県立高校の学びと配置のあり方・・・・ P 26
- 【別添資料】 令和7年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）
・・・・・・・・ 別冊

令和7年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

No	区 分	所 属 等	名 前
1	学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 准教授	か とう たか や 加 藤 貴 也
2	有識者 (4名)	上野都市ガス株式会社 取締役保安工務部長	にし がき ひろ なお 西 垣 浩 尚
3		中外医薬生産株式会社 管理本部総務管理室 室長	かみ で ゆう こ 上 出 優 子
4		株式会社アサネットワーク 代表	い しゅう もと ゆき 伊 集 基 之
5		オキツモ株式会社 経営管理部総務課長	か とう こう し 加 藤 幸 司
6	市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	さわ だ つよし 澤 田 剛
7		名張市教育委員会 教育長	にし やま よし かず 西 山 嘉 一
8	県立学校長代表 (3名)	名張青峰高等学校 校長	みず もり さと し 水 守 智 士
9		伊賀白鳳高等学校 校長	いま たか しげ のり 今 高 成 則
10		名張高等学校 校長	まつ ぎき たか ひさ 松 崎 隆 尚
11	小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 (伊賀市立阿山中学校 校長)	なか がわ ひろ はる 中 川 裕 晴
12		名張市小中学校長会 代表 (名張市立赤目中学校 校長)	やま もと かず ひろ 山 本 和 弘
13	P T A関係者 (5名)	伊賀市P T A連合会 顧問 (伊賀市立阿山小学校P T A)	うち だ まこと 内 田 真
14		名張市P T A連合会 顧問 (名張市立つつじが丘小学校P T A)	はや かわ み え 早 川 美 恵
15		伊賀地区県立学校P T A協議会 会長 (上野高等学校P T A会長)	なか みち たか ゆき 中 道 教 之
16		伊賀市内県立学校P T A 代表 (あけぼの学園高等学校P T A顧問)	おか だ みどり 岡 田 みどり
17		名張市内県立学校P T A 代表 (名張高等学校P T A会長)	あん どう み ほ 安 藤 美 穂
18	教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (伊賀市立上野西小学校 教諭)	ふく もと しん や 福 本 真 也
19		高等学校教員 代表 (伊賀白鳳高等学校 教諭)	よね かわ もり ゆき 米 川 森 幸

計19名

資料 1

令和 7 年度第 1 回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 7 年 8 月 5 日（火）19 時 00 分から 21 時 00 分まで
- 2 場所 三重県伊賀庁舎 大会議室
- 3 概要

伊賀地域の県立高校の総学級数が、現在の 25 学級規模から、令和 6 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する 15 年先には 10～12 学級規模となることが見込まれる中、これまでの協議をふまえ、令和 10 年度以降に想定される当地域の県立高校の学級減への具体的な対応案について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

< 1 学年あたり 10～12 学級となることが想定される 15 年先の学びと配置のイメージについて >

- 15 年先には中学校卒業者数が大きく減少する中で、単にどの施設を残すのかではなく、地域全体としてどのような学びを提供するかを考えた上で、配置の議論をすることが大切である。（加藤会長）
- 通学距離の課題はお金で解決できる部分もある。大切なのは、望む教育をどこに配置するのかのイメージをつくって、そこへ向かっていくことであり、どこを 1 学級減らすのかでは議論は進まない。（西垣委員）
- 小中学校で不登校だったが、少人数のあけぼの学園高校に入学し、笑顔で卒業する子どもが増えているように思う。中学校卒業者数が減る現実を理解しているが、少人数の高校なら頑張ってみようという子どもたちのために、ぜひ小規模校を地域に残してもらいたい。（岡田委員）
- 教職員定数は法律で定められているため、1 学年 1 学級や 2 学級では教員数が少なく、多様な生徒への丁寧な対応は難しくなる。生徒の可能性を引き出すためにも、多様な選択科目の開設が可能であり、部活動や学校行事も充実する一定の学校規模があった方がよい。（松崎委員）
- 進学校から県外の大学に進学した生徒は地元に戻らないことも多いため、地域の人口減少を食い止め、活性化につなげるためには、職業系専門学科や総合学科をある程度残したほうがよい。伊賀白鳳高校では 6 学級規模で 7 学科展開しているため、担任を各学年 1 名増やしてその分各校務分掌の人数を減らして対応している。小規模校の教育も残してほしいが、教員数が限られる中で、5 校を存続することは難しい。（米川委員）
- 高校無償化が検討される中、多様な学びを伊賀地域で保障するためには、近隣の市町や私学との兼ね合いも含め、地域全体で考えていく必要があるのではないか。（山本委員）

- 将来的に、伊賀地域に1校となった場合、地域のいろんな子どもたちを受け入れてくれることに加えて、特色や魅力がなければ私学などに生徒が流れてしまう。また、伊賀市が通学費用の支援を行っているように通学時間や費用は重要で、学校の配置場所によっても状況は変わってくる。高校を存続させるためには、小中学校と同様に県独自の予算で少人数学級を導入するなどの支援も必要なのではないか。(中川委員)
- 現在の1学年25学級規模が10～12学級にまで減少する事実を受け止め、子どもたちにどのような学びを保障するかを大切にして地域全体の配置を考える必要がある。アンケート結果から、子どもたちは、学びたい学科やコースがあること、部活動が活発で学校行事が盛り上がることを求めており、一定の学校規模が必要であることが分かる。子どもたちを中心に考えれば、将来的に北部に1校、南部に1校を配置し、多様な子どもたちを受け入れる機能を持たせることで、当地域で求められる学びを提供できると考える。(西山委員)
- 15年後のビジョンとして、伊賀市と名張市に1校ずつ設置するのであれば、交通の便から伊賀白鳳高校と名張高校の立地がよい。また、大半の子どもたちがこの学校で希望する進路を実現するためには、4年制大学への進学、専門学校への進学、就職のバランスがとれた総合学科を設置するのが理想的である。さらに、定時制や通信制課程も併設された、こうした理想の学校を2校設置できるのであれば、15年先と言わずそこをめざしてスタートを切ることができる。(伊集委員)
- 少子化が進む中、伊賀地域の高校はいずれも危機的な状況にあると言える。これを逆にチャンスと捉えて、どのような学校をつくるのか、資料に「新築や建替えも検討する」とあるが、こちらからそれを利用するつもりで地域全体を見て検討していけるとよい。学校は生徒のためのものであるため、学びやすい学校をつくるという視点が大切である。(水守委員)
- 伊賀地域の子どもたちには伊賀地域で学んでほしいと強く思っている。高校の無償化等により他地域へ生徒が流出し、地域が地盤沈下していくことは避けたい。令和6年生まれの子どもは、伊賀地域で700人弱となり、今後さらに厳しくなることも予想される。進学や就職、多様な子どもたちの受け入れ、これらを全て網羅する高校が伊賀地域に2校程度できることが何となく見えてきた。特に、伊賀市の子どもたちが、どこで魅力ある学びができるのか大変危惧しており、統合なしには地域に高校が残っていかないように感じている。(澤田委員)
- 他地域の県立高校へ毎年100人～130人くらいが進学している中、伊賀地域の高校に通いたいと思ってもらうためには、魅力ある教育内容に加え、学校施設も大切である。小中学校の建替えが進む一方で、県立高校の建替えは何十年と進んでいないため、ハード面でも思い切った施策がほしい。(中道委員)

< 15年先を見据えた令和10年度に想定される1学級減への具体的な対応案について >

- 令和10年度のあけぼの学園高校の募集停止案については、これまでの学びがそこで途絶えてしまうのではないかという心配が大きいと思われるので、伊賀地域の他の高校で同様の学びをしっかりと引き継いでいく必要がある。(今高委員)
- 小規模校でないと高校に行けないという生徒にとって、あけぼの学園高校は大切な存在である。機能を他校に預ければよいというのではなく、県立の使命としてあえて小規模校を設置する必要があるのではないか。(西垣委員)
- あけぼの学園高校が重要な役割を果たしていることについては、全員が共通認識を持っている。一方で令和10年度の学級減に向けて、こうした機能をどのようにつくるかを考えなければならない。多様な子どもたちが通学でき、力を発揮できる教育環境を定時制も含めてどのように実現するのか、今回提示された案を基本に、本日の意見を反映した案を、次回事務局からあらためて提示してもらいたい。(加藤会長)

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）【市別】

(R7第1回協議会資料12再掲)

資料2①

令和7年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月		R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3	R 16.3
伊賀市	卒業生数	801	779	768	771	724	735	709	661	636	620	584	558	519
	前年度対比		-22	-11	3	-47	11	-26	-48	-25	-16	-36	-26	-39
	R7.3対比					-47	-36	-62	-110	-135	-151	-187	-213	-252
	①公立小中在籍者数	(739)	(720)	(710)	(692)	661	683	654	658	631	615	577	553	519
名張市	②私立小中在籍者数	(62)	(59)	(58)	(79)	52	37	35						
	卒業生数	654	642	640	680	644	642	639	612	583	566	578	506	481
	前年度対比		-12	-2	40	-36	-2	-3	-27	-29	-17	12	-72	-25
	R7.3対比					-36	-38	-41	-68	-97	-114	-102	-174	-199
伊賀地域計	③公立小中在籍者数					642	642	637	643	611	595	605	533	506
	卒業生数	1,455	1,421	1,408	1,451	1,368	1,377	1,348	1,273	1,219	1,186	1,162	1,064	1,000
	前年度対比		-34	-13	43	-83	9	-29	-75	-54	-33	-24	-98	-64
	R7.3対比					-83	-74	-103	-178	-232	-265	-289	-387	-451
①②③小中在籍者数						1,355	1,362	1,326	1,301	1,242	1,210	1,182	1,086	1,025

伊賀地域県立高校の1学年学級数	27	26	26	26	24									
() 内は入学定員の計	(1,040)	(1,000)	(1,000)	(1,000)	(920)									

(参考)

県内合計		R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3	R 16.3
	卒業生数	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,044	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比		-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
	R7.3対比				0	-201	-457	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310
小中在籍者数						15,489	15,238	14,788	14,463	14,153	14,149	13,506	12,861	12,524

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）【北部・南部別】

(R7第1回協議会資料12再掲)

資料2②

令和7年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月		R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3	R 16.3
伊賀北部	卒業生数	738	718	714	691	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
	前年度対比		-20	-4	-23	660	670	647	600	583	566	529	501	482
	R7.3対比					-31	10	-23	-47	-17	-17	-37	-28	-19
						-31	-21	-44	-91	-108	-125	-162	-190	-209
	①公立小中在籍者数	(676)	(659)	(656)	(612)	597	618	593	594	577	559	520	496	479
	②私立小中在籍者数	(62)	(59)	(58)	(79)	52	37	35						
伊賀南部	卒業生数	717	703	694	760	708	708	701	673	636	621	634	563	519
	前年度対比		-14	-9	66	-52	0	-7	-28	-37	-15	13	-71	-44
	R7.3対比					-52	-52	-59	-87	-124	-139	-126	-197	-241
	③公立小中在籍者数					706	707	700	707	665	651	662	590	546
伊賀地域計	卒業生数	1,455	1,421	1,408	1,451	1,368	1,378	1,348	1,273	1,219	1,187	1,163	1,064	1,001
	前年度対比		-34	-13	43	-83	10	-30	-75	-54	-32	-24	-99	-63
	R7.3対比				0	-83	-73	-103	-178	-232	-264	-288	-387	-450
	①②③小中在籍者数					1,355	1,362	1,328	1,301	1,242	1,210	1,182	1,086	1,025

伊賀地域県立高校の1学年学級数	27	26	26	26	24									
() 内は入学定員の計	(1,040)	(1,000)	(1,000)	(1,000)	(920)									

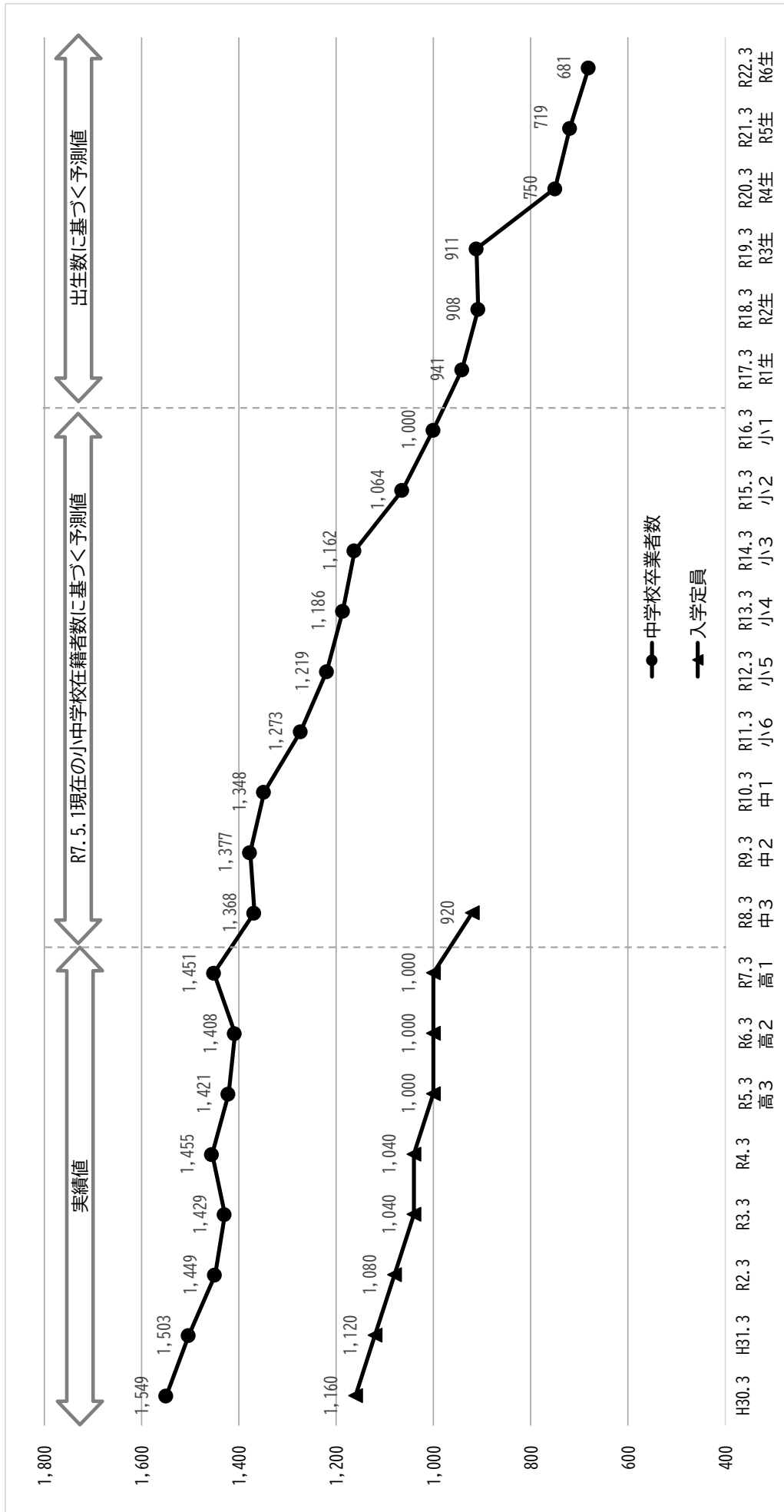
※ 伊賀北部＝伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部＝名張市に旧青山町を加える。

(参考)

県内合計	卒業生数	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3	R 16.3
	前年度対比	16,244	16,055	15,891	15,718	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
	R7.3対比		-189	-164	-173	15,517	-256	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
					0	-201	-457	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310
	小中在籍者数					15,489	15,238	14,788	14,463	14,153	14,149	13,506	12,861	12,524

伊賀地域の中学校卒業者と県立高等学校入学定員（全日制）の推移

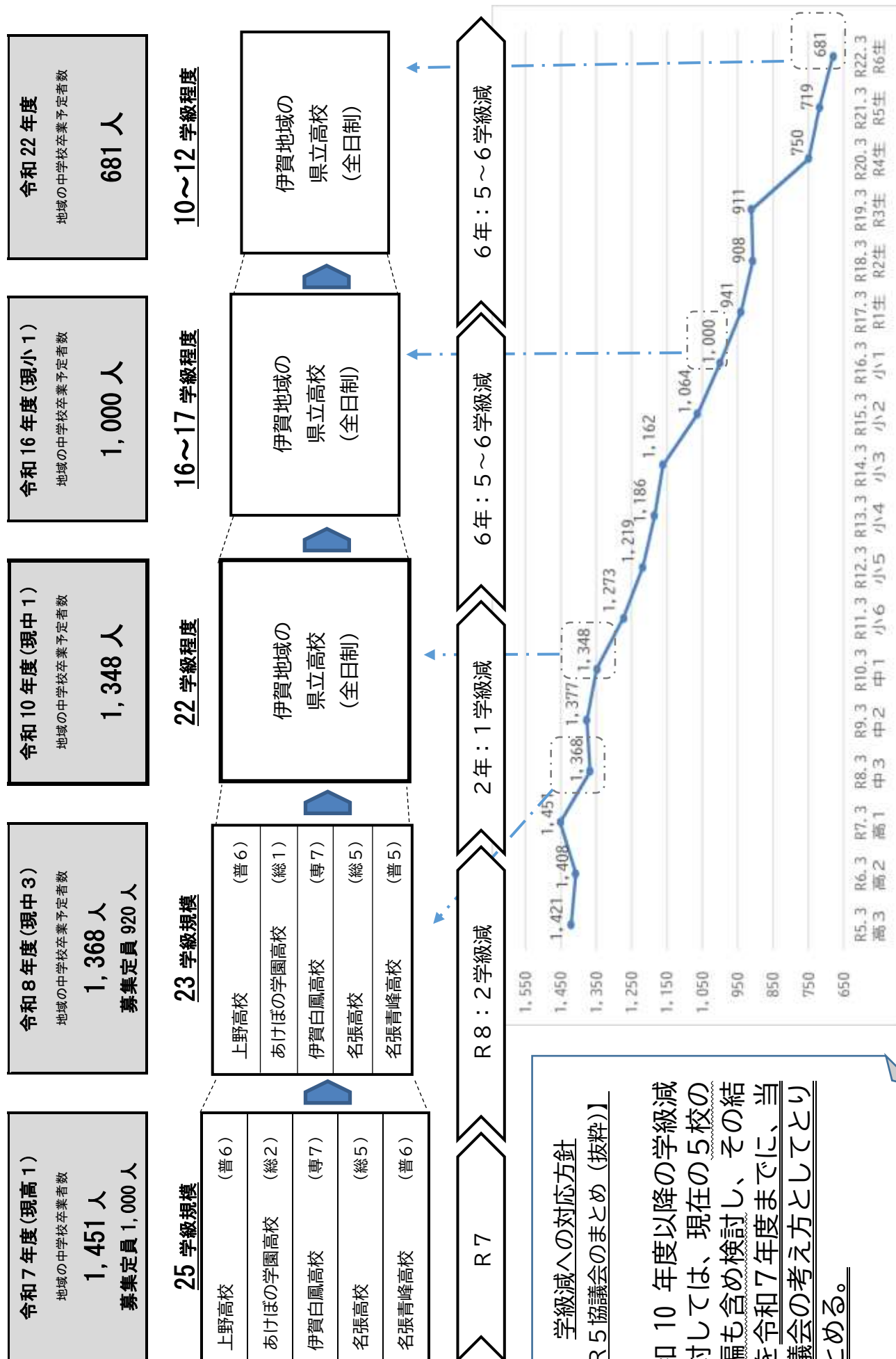


【伊賀地域の出生数】

	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	現小3	現小2	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
伊賀市	643	582	569	533	534	527	434	419	391
名張市	584	522	509	462	427	437	359	342	329
合計	1,227	1,104	1,078	995	961	964	793	761	720

令和22年度までの伊賀地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

資料4



(一部修正 R 7 第 1 回協議会資料 1 5 再掲)

資料5①

–9–

全日制高等学校の設置学科と学級数の推移（名張市）

現在の普通科系以外の 学びのバリエーション											
4系列9専攻											
名張	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
名張桔梗丘	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
名張西	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	情報	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
【6系列】 人文科学 芸術 生活デザイン 芸術デザイン											
名張	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
【4系列】 文理アドバンス 総合ビジネス 健康スポーツ 表現デザイン											
名張	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス	文理アドバンス
	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス	総合ビジネス
	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ	健康スポーツ
	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン	表現デザイン
2校を統合して 名張青峰高校開校											
【学級数】	普通科	英語科	文理探究	総合学科	工業	普通科	英語科	文理探究	総合学科	工業	普通科
	11	1	—	5	1	11	1	—	5	1	11
	11	1	—	5	1	11	1	—	5	1	11
	11	1	—	5	1	11	1	—	5	1	11
	11	1	—	5	1	11	1	—	5	1	11

伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて（令和8年度）

（R7第1回協議会資料16再掲）

資料6

伊賀地域全日制課程		学校名	大学科	募集定員 (R8)	1	2	3	4	5	6	
県立	上野高校	普通科	240	920	学際探究科	学際探究科	学際探究科	学際探究科	理数科	理数科	
県立	あげぼの学園高校	総合学科	40		美容系列 生活教養系列 2 系列/40人 7 学科11コース/240人 4 系列9 専攻/200人						
県立	伊賀白鳳高校	専門学科	240		機械科 (35) ・機械科	電子機械科 (35) ・ロボット ・電気工学	建築デザイン科 (35) ・建築・インテリア ・デザイン	生物資源科 (35) ・生物資源科	フードシステム科 (35) ・フードサイエンス ・バティエ	経営科 (30) ・経営科	ヒューマンサービス科 (35) ・介護福祉 ・生活福祉
県立	名張高校	総合学科	200		文理アドバンス系列 ・人文専攻 ・看護医療専攻 総合ビジネス系列 ・ビジネス専攻 ・情報処理専攻 健康スポーツ系列 ・健康スポーツ専攻 表現デザイン系列 ・美術専攻 ・音楽専攻 ・ファッション専攻 ・映像専攻						
県立	名張青峰高校	普通科	200		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科 【文理探究コース】	
私立	桜丘高校	普通科	155	普通科 (155)							

※大学の「普通科」には、普通系専門学科を含む

○全日制
※ 私立 愛農学園農業高校

○定時制課程
県立 上野高校

県立 名張高校

○通信制課程
私立 英心高校桔梗が丘校

※ 私立 神村学園高等部伊賀

○高等専門学校
私立 近畿大学工業高等専門学校

農業科 25人

普通科 40人

普通科 40人

普通科：探究コース、集中スクーリングコース（R8～）

普通科：選択登校型、全日型（両型合わせた年間募集定員）

機械システム、電気電子、制御情報、都市環境（3年次よりコース選択）

（※県外扱い）

伊賀地域の専門学科と総合学科の学び（令和 8 年度）

専門学科の学び

総合学科の学び

【伊賀白鳳】		
学科	学科名	コース名
工業	機械	機械
	電子機械	ロボット
		電気工学
	デザイン	建築・インテリア
		デザイン
農業	生物資源	生物資源
	フードシステム	フードサイエンス
		パティシエ
商業	経営	経営
福祉	ヒューマンサービス	生活福祉
		介護福祉

【あけぼの学園】		【名張】	
系列名	主な開設科目	系列名	専攻
生活教養	セラミックアート 造形加工	表現デザイン	美術
	製菓製パン 調理	総合ビジネス	ビジネス
	ビジネス文書 情報処理		情報処理
	スポーツ 生涯スポーツ		
	ビューティー (ベーシック・アドバンス・ プロフェッショナル・スキルアップ)	健康スポーツ	健康スポーツ
	美容		
		表現デザイン	ファッション
			音楽
			映像
		文理アドバンス	人文
			看護医療

伊賀地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること(問6)

「通学のしやすさ・距離」(49.8%)、「学校の雰囲気・イメージ」(48.0%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(46.0%)、「学びたい学科やコースがある」(42.7%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.3%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育(問8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(54.0%)、「基本的な知識が身につく教育」(46.2%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(44.2%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(43.2%)を期待している。

(3) 希望する学級数について(問10)

多い順に「2～3学級」(41.8%)、「4～6学級」(37.7%)、「1学級」(16.7%)、続いて「7学級以上」(3.9%)となっている。

(4) 通学時間について(問11)

多い順に「60 分以内まで」(43.4%)、「30 分以内まで」(29.3%)、「90 分以内まで」(19.1%)、「120 分以内まで」(5.0%)、「121 分以上」(3.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について(問12)

「まだ決まっていない、わからない」(39.9%)が最も多く、続いて、「県外」(26.8%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(13.0%)、「地元(現在住んでいる市町)」(9.6%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること(問6)

「学びたい学科やコースがあること」(71.2%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(68.1%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(63.3%)に続いて、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(42.8%)となっている。

(2) 高校に期待する教育(問8)

「自ら学び続ける力が身につく教育」(59.5%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(58.8%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(52.9%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(51.8%)を期待している。

(3) 学級の規模について(問10)

多い順に「4～6学級」(51.7%)、「2～3学級」(32.5%)、「1学級」(11.7%)、続いて「7学級以上」(4.1%)となっている。

(4) 通学時間について(問11)

多い順に「60 分以内まで」(59.4%)、「30 分以内まで」(25.3%)、「90 分以内まで」(12.8%)、「120 分以内まで」(2.3%)、「121 分以上」(0.3%)となっている。

(5) 将来生活する場所について(問12)

「本人の希望次第」(67.0%)が最も多く、続いて、「地元」(8.7%)、「特に考えはない」(8.3%)、「県外」と「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.1%)となっている。

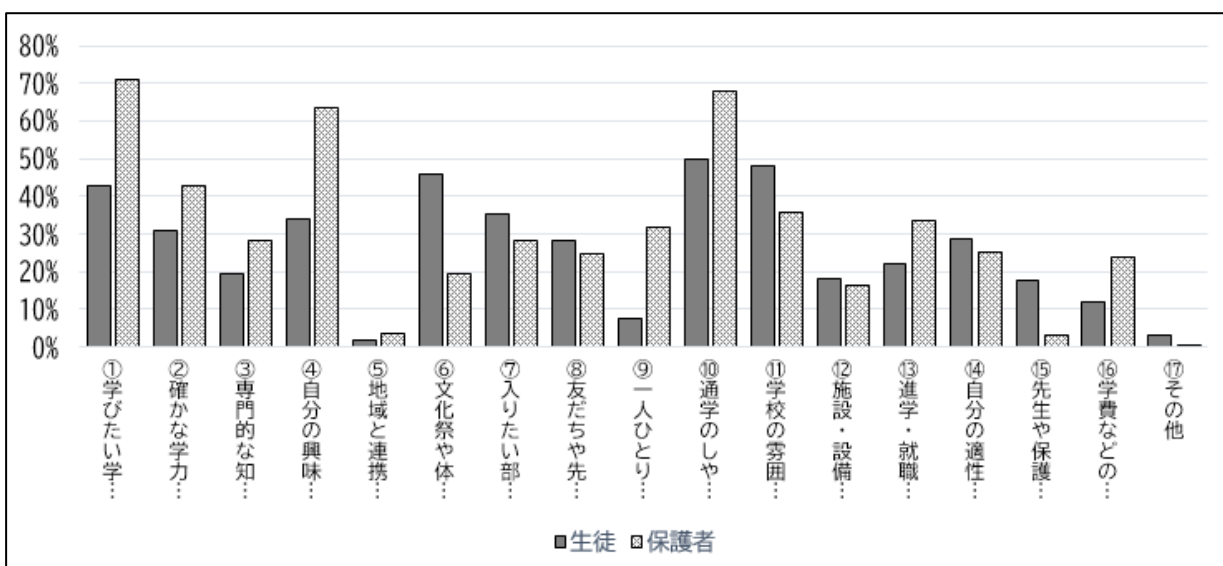
(6) 今後の伊賀地域の県立高校のあり方について(問13)

今後の伊賀地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(61.6%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(33.6%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.8%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

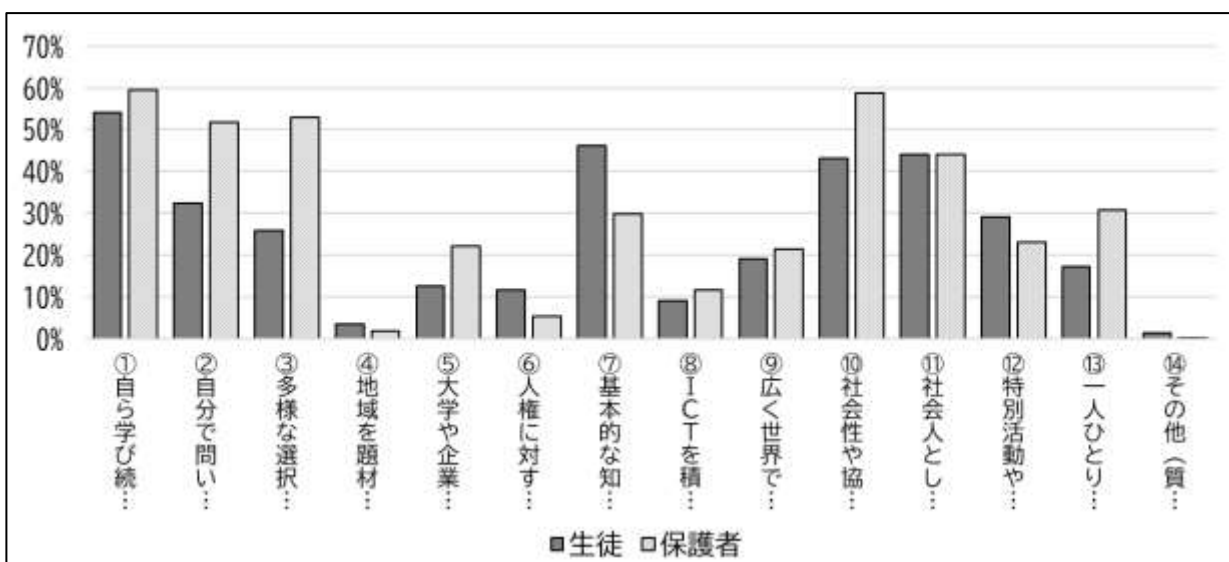
(1) 高校選びに重視すること(回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,062 人)		保護者 (1,096 人)	
① 学びたい学科やコースがある	④ 453	42.7%	① 780	71.2%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦ 327	30.8%	④ 469	42.8%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑪ 206	19.4%	⑧ 311	28.4%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥ 361	34.0%	③ 694	63.3%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑰ 21	2.0%	⑮ 41	3.7%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③ 489	46.0%	⑬ 211	19.3%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤ 375	35.3%	⑨ 310	28.3%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑨ 302	28.4%	⑪ 272	24.8%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮ 82	7.7%	⑦ 349	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	① 529	49.8%	② 746	68.1%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	② 510	48.0%	⑤ 390	35.6%
⑫ 施設・設備の充実	⑫ 191	18.0%	⑭ 180	16.4%
⑬ 進学・就職の実績	⑩ 235	22.1%	⑥ 369	33.7%
⑭ 自分の適性や能力	⑧ 303	28.5%	⑩ 275	25.1%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬ 187	17.6%	⑯ 36	3.3%
⑯ 学費などの経費負担	⑭ 126	11.9%	⑫ 259	23.6%
⑰ その他(質問7の自由記述へ)	⑯ 35	3.3%	⑰ 6	0.5%



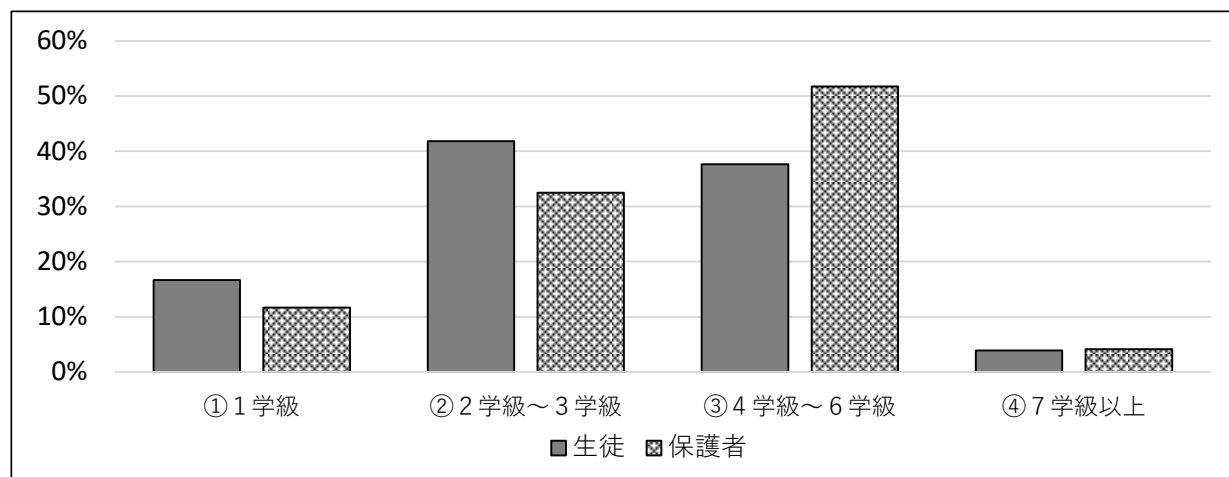
(2) 高校に期待する教育(回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,062 人)		保護者 (1,096 人)	
① 自ら学び続ける力が身につく教育		① 573	54.0%	① 652	59.5%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育		⑤ 343	32.3%	④ 568	51.8%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育		⑦ 275	25.9%	③ 580	52.9%
④ 地域を題材として学ぶ教育		⑬ 38	3.6%	⑬ 21	1.9%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育		⑩ 135	12.7%	⑨ 243	22.2%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育		⑪ 125	11.8%	⑫ 60	5.5%
⑦ 基本的な知識が身につく教育		② 491	46.2%	⑦ 328	29.9%
⑧ ICTを積極的に活用する教育		⑫ 98	9.2%	⑪ 128	11.7%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育		⑧ 203	19.1%	⑩ 236	21.5%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育		④ 459	43.2%	② 644	58.8%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育		③ 469	44.2%	⑤ 483	44.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育		⑥ 310	29.2%	⑧ 253	23.1%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育		⑨ 183	17.2%	⑥ 337	30.7%
⑭ その他(質問9の自由記述へ)		⑭ 15	1.4%	⑭ 3	0.3%



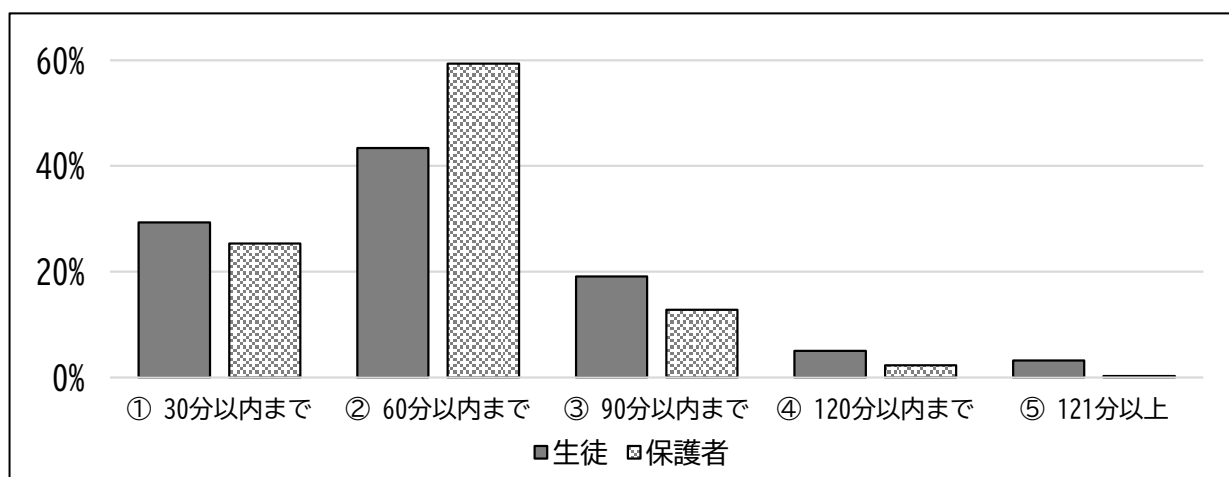
(3) 1学年あたりの学級規模(回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,062 人)		保護者 (1,096 人)	
① 1学級(40 人)	③ 177	16.7%	③ 128	11.7%
② 2学級～3学級(80～120 人)	① 444	41.8%	② 356	32.5%
③ 4学級～6学級(160～240 人)	② 400	37.7%	① 567	51.7%
④ 7学級以上(280 人～)	④ 41	3.9%	④ 45	4.1%



(4) 進学したい高校までの通学時間(回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,062 人)		保護者 (1,095 人)	
① 30分以内まで	② 311	29.3%	② 277	25.3%
② 60分以内まで	① 461	43.4%	① 650	59.4%
③ 90分以内まで	③ 203	19.1%	③ 140	12.8%
④ 120分以内まで	④ 53	5.0%	④ 25	2.3%
⑤ 121分以上	⑤ 34	3.2%	⑤ 3	0.3%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17 個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア)生徒、保護者の両者で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒4位 453 人(42.7%)、保護者1位 780 人(71.2%)

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒6位 361 人(34.0%)、保護者3位 694 人(63.3%)

⑩通学のしやすさ・距離

生徒1位 529 人(49.8%)、保護者2位 746 人(68.1%)

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒2位 510 人(48.0%)、保護者5位 390 人(35.6%)

(イ)生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒7位 327 人(30.8%)、保護者4位 469 人(42.8%)

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 489 人(46.0%)、保護者 13 位 211 人(19.3%)

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒5位 375 人(35.3%)、保護者9位 310 人(28.3%)

⑬進学・就職の実績

生徒 10 位 235 人(22.1%)、保護者6位 369 人(33.7%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒 17 位 21 人(2.0%)、保護者 15 位 41 人(3.7%)

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒 15 位 82 人(7.7%)、保護者 7 位 349 人(31.8%)

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒 13 位 187 人(17.6%)、保護者 16 位 36 人(3.3%)

(2)「高校に期待する教育(14 個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア)生徒、保護者の両者で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 573 人(54.0%)、保護者1位 652 人(59.5%)

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 343 人(32.3%)、保護者4位 568 人(51.8%)

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 459 人(43.2%)、保護者2位 644 人(58.8%)

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 469 人(44.2%)、保護者5位 483 人(44.1%)

(イ)生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒7位 275 人(25.9%)、保護者3位 580 人(52.9%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 491 人(46.2%)、保護者7位 328 人(29.9%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 38 人(3.6%)、保護者13位 21 人(1.9%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒11位 125 人(11.8%)、保護者12位 60 人(5.5%)

⑧ICTを積極的に活用する教育

生徒12位 98 人(9.2%)、保護者11位 128 人(11.7%)

(3)「1学年あたりの学級規模(1つ選択)」について

生徒は「2学級～3学級」(41.8%)と最も多く、次いで「4学級～6学級」(37.7%)、「1学級」(16.7%)。保護者は「4学級～6学級」(51.7%)と最も多く、次いで「2学級～3学級」(32.5%)、「1学級」(11.7%)となっている。

(4)「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60 分以内まで」(生徒 43.4%、保護者 59.4%)、「30 分以内まで」(生徒 29.3%、保護者 25.3%)と続き、さらに「90 分以内まで」(生徒 19.1%、保護者 12.8%)、「120 分以内まで」(生徒 5.0%、保護者 2.3%)となっている。

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（÷学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ワタゲ・フォード）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No.19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

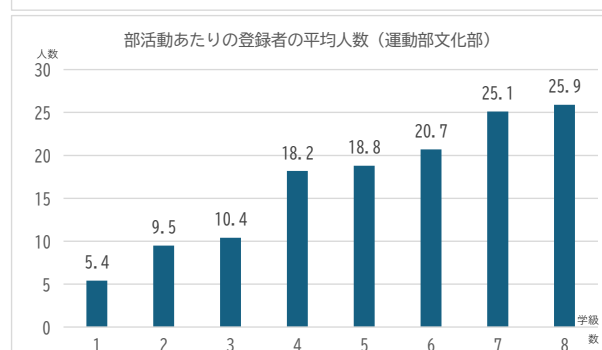
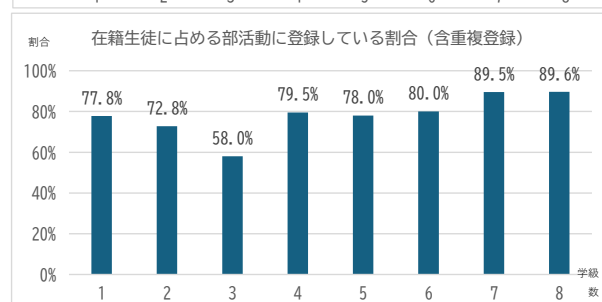
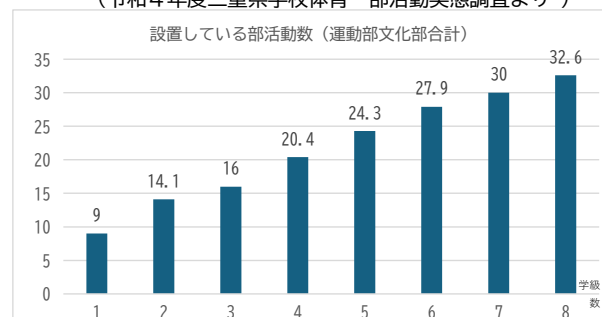
第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ワタゲ・フォード）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No.19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
20												
設置部活動の種類（～No.20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

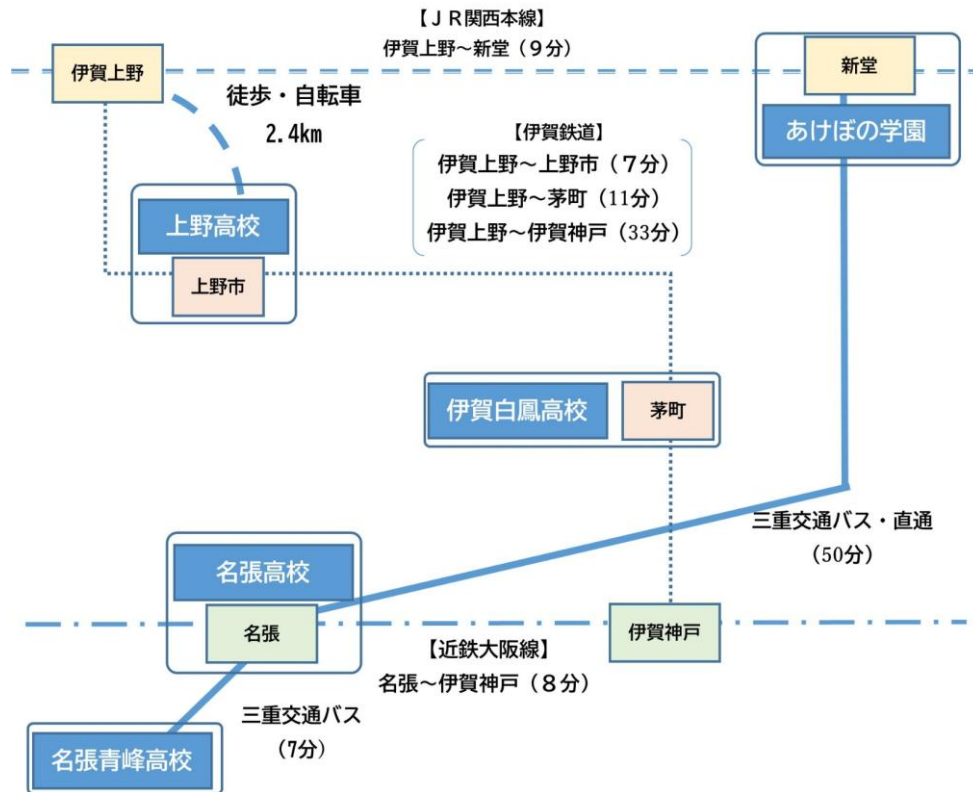
○1学年あたりの学級数別の部活動の状況

（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



伊賀地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等

(1) 通学における主な路線図



(2) 通学方法別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

学校名 通学方法		上野	あけぼの学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	合計
徒歩のみ		84	2	116	54	58	314
		11.7%	0.9%	16.9%	9.3%	8.2%	10.8%
自転車のみ		152	13	283	101	41	590
		21.3%	6.1%	41.1%	17.5%	5.8%	20.4%
単車のみ		0	0	2	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
JRのみ		0	30	12	0	0	42
		0.0%	14.2%	1.7%	0.0%	0.0%	1.4%
私鉄のみ		193	0	68	158	20	439
		27.0%	0.0%	9.9%	27.3%	2.8%	15.2%
バスのみ		58	98	33	125	164	478
		8.1%	46.2%	4.8%	21.6%	23.3%	16.5%
JRと	私鉄	40	1	63	16	7	127
		5.6%	0.5%	9.2%	2.8%	1.0%	4.4%
	バス	0	4	7	0	1	12
		0.0%	1.9%	1.0%	0.0%	0.1%	0.4%
	自転車	2	17	4	0	0	23
		0.3%	8.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.8%
私鉄と	バス	47	5	10	20	330	412
		6.6%	2.4%	1.5%	3.5%	46.9%	14.2%
	自転車	29	2	9	39	29	108
		4.1%	0.9%	1.3%	6.7%	4.1%	3.7%
バスと	自転車	9	7	9	10	20	55
		1.3%	3.3%	1.3%	1.7%	2.8%	1.9%
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)		101	33	72	55	34	295
		14.1%	15.6%	10.5%	9.5%	4.8%	10.2%
合計		715	212	688	578	704	2,897

(3) 通学費用別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	上野	あけぼの学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	合計	積み上げ
不要	313 43.8%	39 18.4%	445 64.7%	187 32.4%	141 20.0%	1,125 38.8%	1,125 38.8%
3,000円以内	25 3.5%	4 1.9%	17 2.5%	69 11.9%	56 8.0%	171 5.9%	1,296 44.7%
5,000円以内	47 6.6%	8 3.8%	17 2.5%	113 19.6%	94 13.4%	279 9.6%	1,575 54.4%
7,000円以内	63 8.8%	20 9.4%	23 3.3%	87 15.1%	107 15.2%	300 10.4%	1,875 64.7%
9,000円以内	61 8.5%	31 14.6%	59 8.6%	29 5.0%	63 8.9%	243 8.4%	2,118 73.1%
11,000円以内	78 10.9%	21 9.9%	58 8.4%	51 8.8%	109 15.5%	317 10.9%	2,435 84.1%
13,000円以内	54 7.6%	26 12.3%	31 4.5%	21 3.6%	53 7.5%	185 6.4%	2,620 90.4%
15,000円以内	21 2.9%	42 19.8%	10 1.5%	10 1.7%	38 5.4%	121 4.2%	2,741 94.6%
15,001円以上	53 7.4%	21 9.9%	28 4.1%	11 1.9%	43 6.1%	156 5.4%	2,897 100.0%
合計	715	212	688	578	704	2,897	2,897

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	上野	あけぼの学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	合計	積み上げ
15分以内	157 22.0%	25 11.8%	168 24.4%	116 20.1%	89 12.6%	555 19.2%	555 19.2%
30分以内	224 31.3%	25 11.8%	255 37.1%	189 32.7%	172 24.4%	865 29.9%	1,420 49.0%
45分以内	113 15.8%	27 12.7%	97 14.1%	139 24.0%	161 22.9%	537 18.5%	1,957 67.6%
60分以内	163 22.8%	65 30.7%	104 15.1%	92 15.9%	150 21.3%	574 19.8%	2,531 87.4%
90分以内	51 7.1%	57 26.9%	40 5.8%	40 6.9%	104 14.8%	292 10.1%	2,823 97.4%
120分以内	5 0.7%	13 6.1%	18 2.6%	1 0.2%	25 3.6%	62 2.1%	2,885 99.6%
121分以上	2 0.3%	0 0.0%	6 0.9%	1 0.2%	3 0.4%	12 0.4%	2,897 100.0%
合計	715	212	688	578	704	2,897	2,897

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R7. 5. 1 学校基本調査より

種別 \ 学校名	上野	あけぼの学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	合計
下宿	0	0	0	10	3	13
寄宿舎	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	10	3	13

次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

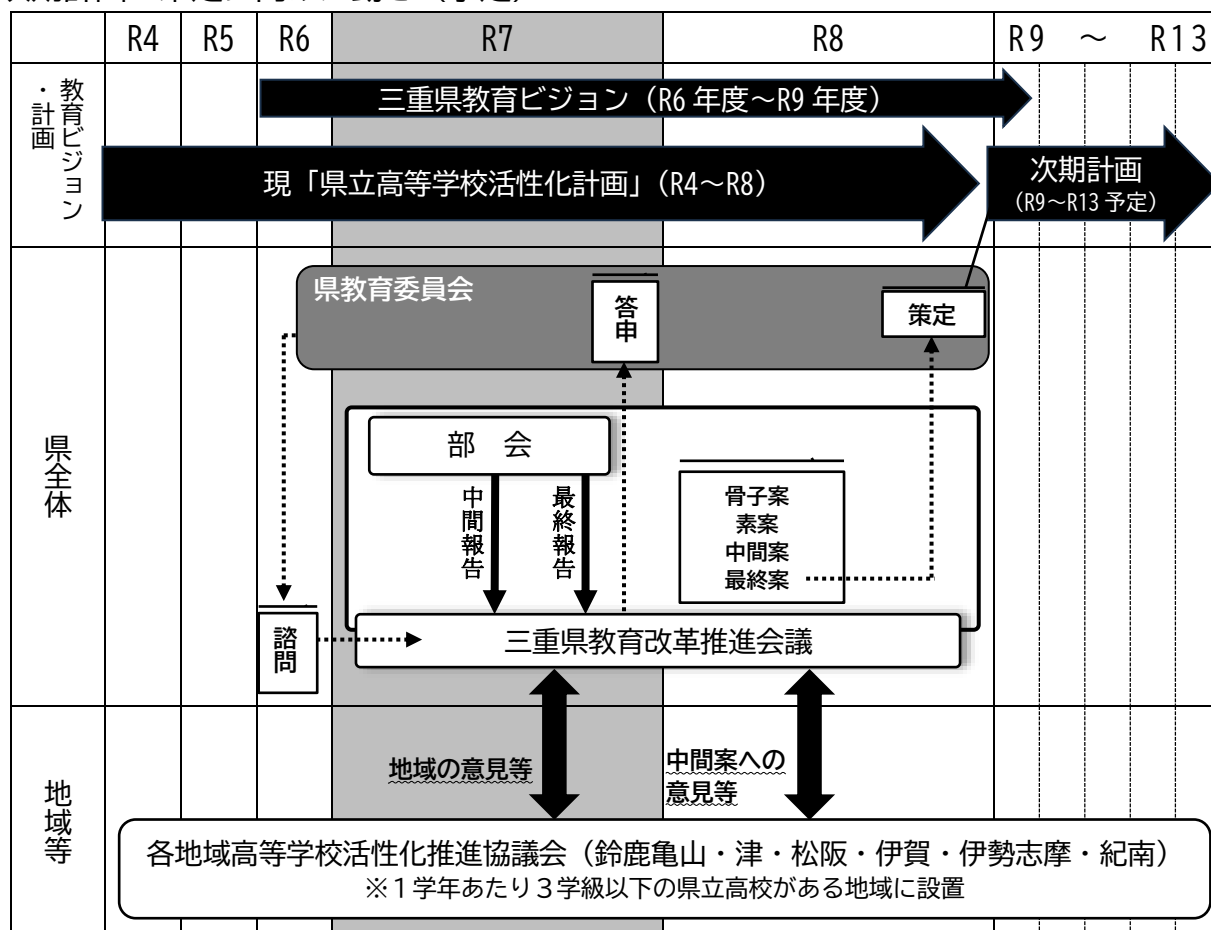
1 三重県教育改革推進会議における審議

現行の県立高等学校活性化計画（以下、「計画」という。）は令和4年から令和8年が計画期間となっていることから、県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議（以下「推進会議」という。）の審議を経て次期計画を令和8年度末に策定します。

令和7年3月に開催された推進会議では、県教育委員会教育長から次期計画の策定に係る県立高校の学び並びに規模及び配置のあり方について諮問され、令和8年3月31日までに報告することとなっています。

また、その審議については、推進会議と併せ、専門的な調査研究を行うための部会（「県立高等学校の在り方調査研究部会」）が設置され、今年度集中的に審議されることとなっています。

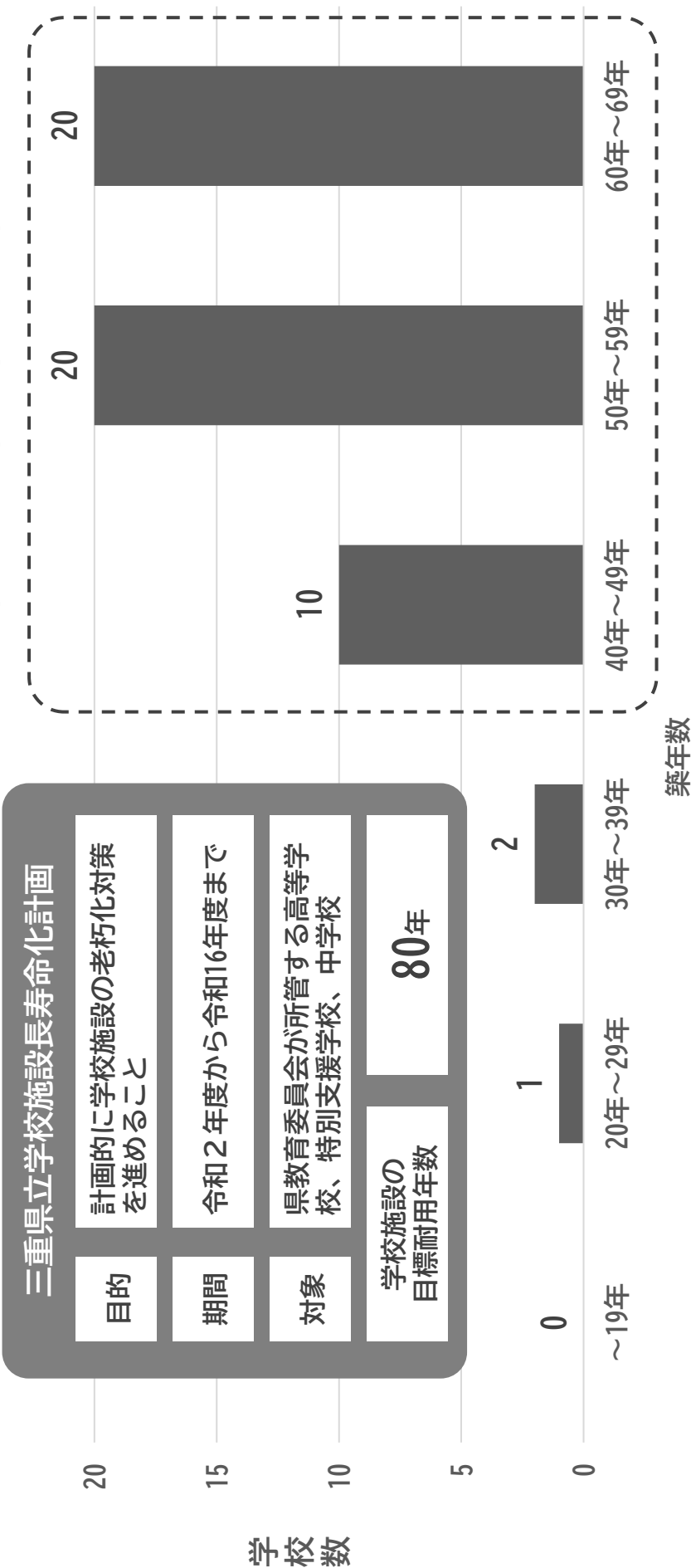
2 次期計画の策定に向けた動き（予定）



学校施設

学校施設の老朽化の状況

53校*1中50校が築40年以上*2経過している



【備考】

- * 1 熊野青藍高等学校については、木本高等学校及び紀南高等学校と同一の校舎であるため、学校数に含めていない。
- * 2 各県立高等学校（全日制）の主たる校舎の築年数（令和7年4月1日時点）

三重県教育改革推進会議
令和7年度第2回県立高等学校の在り方調査研究部会（R7.9.4）
「論点に関する補足説明資料」より

今後の伊賀地域における県立高等学校の学びと配置のあり方について

これまでの協議の内容やアンケート結果をふまえ、以下のように整理しました。

1 令和7年度まとめに向けた方向性

- 少子化の中にあっても、当地域にどのような高校が必要なのか、未来に向けて前向きに発想する。
- 令和10年度以降の学級減への対応については、15年先を見据えて方向性を取りまとめる。
- 他地域へ進学する生徒が一定数あることから、地域の子どもたちが地域で学べるよう、普通科、専門学科、総合学科の学科・コース・系列など多様な学びの選択肢をできるだけ維持する。
- 大学進学ニーズに応える普通科高校が地域に必要であり、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置のためには、少なくとも1学年あたり6学級あることが望ましい。
- 部活動の活性化や学校行事の充実のためには、一定の学校規模があることが望ましい。
- 不登校を経験した子どもたち、外国につながる子どもたち、特別な支援を必要とする子どもたちなど、多様な子どもたちが安心して通える教育環境を実現する。
- 伊賀北部と南部に分けるだけではなく、隣接する地域の状況もふまえて伊賀地域全体で考える。
- 学びや機能などのソフト面と施設設備や立地などのハード面は分けて検討する。
- 通学方法や通学時間、交通費など通学に係る状況を考慮する。通学時間については、概ね90分以内、出来れば60分以内となることが望ましい。
- 当地域の私立通信制高校の動向を注視しつつ、公立高校として多様なニーズにどのように応えていくのかを、全日制課程だけでなく定時制や通信制課程を含めて検討する。

2 1学年あたり10～12学級となることが想定される15年先の学びと配置のイメージ

- 伊賀地域の高校の学びと配置のあり方は、北部と南部に分けるのではなく、地域全体で考える。
- 「1 令和7年度まとめに向けた方向性」をふまえると、現在の5校は、大学進学ニーズに応える観点と多様な学びの選択肢を提供する観点を重視しながら2校へ集約される。
- 当地域内の通学環境を考慮すると、北部に1校、南部に1校を交通の便がよい場所に配置する。(新築・建替えも検討)

3 15年先を見据えた令和10年度に想定される1学級減への具体的対応(案)

- 大学進学ニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる1学年あたり6学級の普通科高校を、地域に1校は維持する。
- 専門性の高い学びを含む多様な学びの選択肢をできる限り維持しながら、専門学科や総合学科の系列の学びなどの集約を図る。
- 学校行事、部活動など、子どもたちが協働的に活動できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。
- 定時制のあり方を含め、日本語指導や通級による指導など学びのセーフティーネット機能の充実を図り、不登校を経験した生徒、外国につながる生徒、特別な支援が必要な生徒など、多様な子どもたちがどの学校においても安心して学べる教育環境を整える。
- こうしたことから、令和10年度にあげぼの学園高校を募集停止とし、5校を4校に再編して学びを整理統合する。

4 今後の協議について

- 当協議会では、他地域に先駆けて、当地域の高等学校の学びと配置のあり方についてとりまとめてきました。このことは、新しい専門学科の設置や普通科改革など、地域の高等学校の活性化の取組となり、未来を前向きにとらえた伊賀地域における豊かな学びの実現につながっています。
- 今後も中学校卒業者数の急速な減少が進む中、大学進学ニーズや専門性の高い学びを含む多様な学びの選択肢の提供と多様な子どもたちへの対応を同時に追求しつつ、「15年先の学びと配置のイメージ」の実現に向けて、2校の学びと配置のあり方をできるだけ早期に示す必要があります。
- そのため、次期県立高等学校活性化計画の策定に係る協議も注視しつつ、当地域の子どもたちにとって魅力ある新しい学校の学びのコンセプトと、それに基づく新築・建替えを含めた配置のあり方について、令和9年度を目途に当協議会において考え方をとりまとめる必要があります。